



2024

Annual Report

HA-HA-HAの活動は、
個人の方や企業・団体からのご寄附や賛助会員での支援により
手厚く、幅広い支援体制となっています。

活動や理念に共感いただけたら、
ぜひご寄附やご入会での支援をいただけますようお願いいたします。

詳しい支援の方法はWebサイト <https://npo-hahaha.jp/donation/>
HA-HA-HAは認定NPO法人を取得しております。
認定NPO法人に対する寄附は、個人・法人ともに寄附が税制控除の対象です。



Supporters

団体賛助会員



(株) ヒロ・テクノサービス



(株) ネイルズサイエンス



(株) Grace Top



※ 入会順
※ 2026年2月10日時点



第9期活動報告(2024.12.01~2025.11.30)

認定NPO法人HA-HA-HA

Contents

目次

- 02 Contents ~目次
- 03 Top Message ~理事長メッセージ
- 04-08 Achievement ~第9期の支援実績報告
Parent Program ~ペアレント・プログラム報告 (津市後援事業)
- 09-10 Financial Report ~第9期の収支等報告
- 11 Organization Information ~団体概要
- 12 Supporters ~団体賛助会員



NPO法人HA-HA-HAは、2025.12.01から第10期を迎え、
認定NPO法人として再起動します。

Organization Information

法人概要

認定NPO法人HA-HA-HA

法人名 NPO法人HA-HA-HA
設立 2017年1月
所在地 〒514-0042 三重県津市新町二丁目10-33
TEL: 059-229-1515
E: info@npo-hahaha.jp
沿革 2017年3月 障がい児通所支援施設 子LAB (児童発達支援/放課後等デイサービス) 設立
2020年4月 保育所等訪問支援設置
2021年4月 相談支援事業設置 (障がい児相談支援/特定相談支援)
〃 年12月 グッドガバナンス認証取得 (三重県唯一の取得)
2022年5月 津市後援事業ペアレント・プログラム開始
〃 年6月 特定相談支援受け入れ開始
2024年7月 三重県SDGs推進パートナー企業登録
〃 年12月 みえの働き方改革推進企業 3つ星登録
2025年10月 グッドギビング認証取得 (第1期認証/三重県唯一の取得)
〃 年12月 認定NPO法人の認定取得

[理事]

理事長 大越 加奈
(理学療法士/特別支援教育士/児童発達支援管理責任者/相談支援専門員/保育士/農福連携技術支援者)
副理事長 大越 仁
(理学療法士/特別支援教育士/児童発達支援管理責任者/準認定ファンドレイザー/農福連携技術支援者/林福連携コーディネーター)
理事 辻 翠
(総施設長/特別支援教育士/児童発達支援管理責任者/幼稚園教諭/保育士)
前島 亜沙美
(児童発達支援管理責任者/幼稚園教諭/保育士/強固行動障害支援者/学習支援員/農福連携技術支援者)
梅谷 裕子
(社会福祉士/特別支援教育士/児童発達支援管理責任者/相談支援専門員/保育士)
山下 ゆり子
(主任相談支援専門員/強固行動障害支援者/要医療的ケア児コーディネーター/高次脳機能障害支援者)
外部理事 森 由起子
((株) トーカイホールディングス/ (株) トーカイ/ (株) エーワイファーム 代表取締役社長)
宮田 真理
(伊賀市通級支援教室教諭/特別支援教育士)
長谷川 正彦
(社会保険労務士法人ハセガワ事務所代表)

[監事]

監事 小田 和範
(さかのした農園)

[顧問]

顧問 黒田公認会計士事務所
社会保険労務士法人ハセガワ事務所

2024年度 貸借対照表

科目	金額 (単位:円)
I 資産の部	
1 流動資産	31,265,625
2 固定資産	11,768,272
資産合計	43,033,897
II 負債の部	
1 流動負債	10,570,174
2 固定負債	18,260,332
負債合計	28,830,506
III 正味財産の部	
正味財産合計	14,203,391
負債及び正味財産合計	43,033,897

2024年度 活動計算書

科目	金額 (単位:円)
I 経常収益	
1 受取寄付金	768,149
2 受取助成金	1,324,020
3 事業収益	75,879,199
4 その他収益	46,226
経常収益計	78,017,594
II 経常費用	
1 事業費	72,216,199
2 管理費	3,581,239
経常収益計	75,797,438
III 経常外収入	
経常外収入計	0
IV 経常外費用	
経常外費用計	38,076
住民税、住民税及び事業税	142,900
当期正味財産増減額	2,039,180

開示情報について

NPOの存在意義は『社会課題の解決』にあります。そのため利益については、継続的な活動を行っていくための手段でしかありません。とはいえ、自立した責任ある運営のためには、営利企業と同様に財務健全性を無視することはできず、財務健全性を保つため、情報開示を行い、経営の透明性を高め、社会に認められ、共感を得られるよう努めています。

尚、会計処理や開示方法はNPO会計基準に則り行っております。

[Message ~担当者からのメッセージ]

みんながイキイキと、
そんな社会の実現のために

HA-HA-HAの財務の視点からの運営状況は、収益が横ばいのフェーズに入ってきています。そんな中、今後も手の届きにくいところへの支援や収入に繋がらない、つまり営利企業がやりたがらない事業に手を伸ばしていくために多くの支援をいただき本当にありがたく思っております。

今期も含め、過去数年、事業のスマート化や基盤整備に費やしてきました。節目ともなる第10期でも同様の動きを継続していくものと想定しています。そのため費用が一定程度、膨らむと考えます。その中で何とか保育所等訪問支援と相談支援をテコ入れし、支援の増強を行いながら、より健全な財務運営に繋げていく考えです。

HA-HA-HAの課題は放課後等デイサービスを主体とする利用待機者の解消、地域課題でもある相談支援事業所の過度な不足による利用者の待機状態の解消です。また加えるなら、保育所等訪問支援による連携を幼少期から行える体制づくりの構築です。これは当法人の訪問先の多くが学校であるように、子どもの課題の顕在化が小学校以降と遅いことが多く、本来であればもう少し早く連携ができるのではないかとこの考えからです。

放課後等デイサービス等の利用待機者の解消については、大規模な体制変更が必要なため、現状変更は難しいところがありますが、相談支援の強化は第10期の主な課題と捉えています。要は相談支援専門員の増員、育成ということになります。ここに予算を割き社会課題の解決へと一助となることを考えています。

また保育所等訪問支援の強化については、適切な専門性を持ったスタッフの配置、特に幼少期を支援できるスタッフを配備することで分業化を進めながら、早期支援につなげる考えです。この点については育成をゆっくりと進めながら、焦らず、進めています。

今後、大きく活動を増強するために事業の転換点を迎える可能性もあります。その転換点を迎える前に、活動に共感をいただけるよう邁進していきたいと考えております。そして支援者も楽しく、イキイキと遊ぶように課題解決に迎える環境を構築していきます。

Top Message

理事長メッセージ

HA-HA-HAは2017年1月法人設置、その後、要医療的ケア児や要リハビリテーション児の受け皿不足や専門的な支援の不足を解消することを目的に子LABを設立しました。

加えて、発達障がい児や発達性協調運動症(DCD)、学習障害、不登校や引きこもりなど多様な支援ニーズ対応のため専門職の育成や雇用、資格の取得などを進めてきました。

また設立当初より保護者支援の必要性を感じ、茶話会はじめ、津市後援ペアレント・プログラム(ペアプロ)の実施を4年連続、計8回実施。ペアプロが地域で広く根付くよう、地域の支援者も併せて育成してきました。

直接支援では医療・教育・心理…いずれでもエビデンススペースの支援に努めています。そのため1つの手法に依存せず、多様な支援について、情報収集し、実施に向けて研鑽しています。米コロラド大INREALアプローチや米UCLAのアプローチ、ペアプロも保護者がポジティブに養育できるなど複数の効果が認められる支援の1つです。

そしてマンツーマンを基本とした、少人数の手厚い支援体制を構築し、これらの複合的な支援と子LABが持つ複数の機能を調和させて、総合支援に努めています。

また2020年には保育所等訪問支援も開始し、子どもが通園・通学・通所しているたくさんの方に訪問し、連携が図れるようになりました。これにより自分たちにはない機能や職種とも情報共有し、また連携しながら活動ができるようになり、支援に大きく貢献してくれています。

2021年には相談支援事業も開始、2022年成人の相談受入も開始し、現在の体制となります。訪問事業と合わ

せて、支援をコーディネートする立場の相談支援でも多事業所、多職種連携が進み、そこに子ども本人、保護者を中心に据えられることで支援をよりいっそう多様化することが可能になりました。

そのため多様な子どもたちが利用してくれています。利用が想定されやすい子どもたちだけでなく、難病や医療的なケアが課題で幼稚園に通えない子ども、リハビリテーションのような運動発達に課題がある子ども、視覚認知や学習に課題がある子ども、コミュニケーションに課題がある子どもなどもあります。

現在は看護師不在のため第10期からは直接支援での医療的ケアは行っていませんが、医療的ケアが行われている子どもで当法人での処置が不要な子どもたちが利用してくれています。そして相談支援があることで、重複した重篤な障害を持つ重症の心身障がい児のコーディネートなども行っています。

第9期には相談支援専門員の山下が日本小児循環器学会での発表なども行いました。これは子どもの障がいでは通例では使えないサービスを交渉し、利用できるようにできた地域支援の事例発表でした。

本当に粘り強く、子どもに寄り添って活動した相談員が認められた瞬間だったと感じています。

報告時には設立後10年目が始まっています。節目といってもやることは変わりません。

子どもが楽しく、HA-HA-HAと笑いながら活躍できる社会を願っています。



総合的支援への取り組み

通所支援は3部門が設置されています。未就学児支援『児童発達支援』、就学児支援『放課後等デイサービス』、幼稚園・保育園・認定こども園（幼保園）・学校・放課後児童クラブへの訪問支援『保育所等訪問支援』です。

またケアマネージャーのように支援のコーディネートを行う相談支援事業は子ども『障がい児相談』、成人『特定相談』共に設置されており、児童発達支援／保育所等訪問支援／障害児相談支援の3項目により、児童発達支援センターの主要要件を満たす構成が特徴です。

加えて、保護者支援ペアレント・プログラム（津市後援）の実施により補助要件のような取り扱いになっている部分も満たしています。

[子LABの支援の特徴]

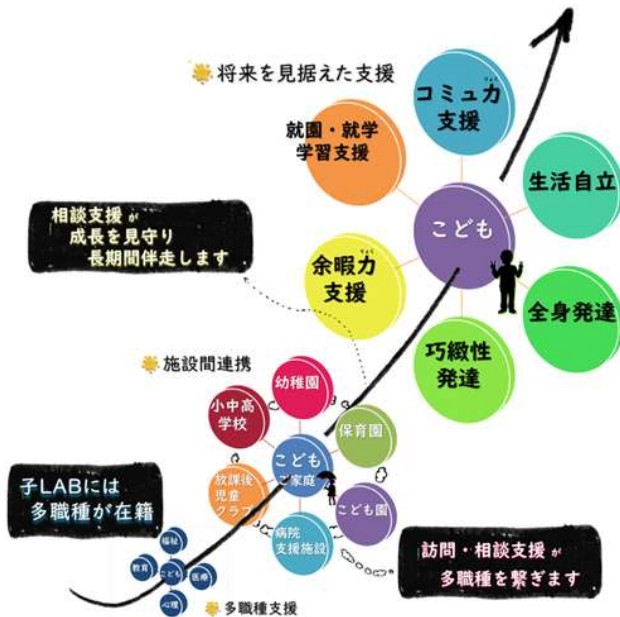
総合支援への第1の取り組みとして、事業所内の多職種連携があります。医療・福祉・教育・心理の専門資格保持者や経験者が在籍し、支援しています。

そして第2の取り組みとして、保育所等訪問支援や相談支援の機能を活かし、事業所間や幼保園・学校、病院や放課後児童クラブなど多様な事業所外連携に取り組めるのが特徴です。

第3の取り組みとして、将来を見据えた支援を特定のプログラムを持たずに、個別に支援計画し、支援を行う子LABの特徴があります。

これらにより多職種、多事業所の情報を基により深化した支援へと繋がります。現時点での支援、将来のための支援を並行して取り組みます。

特にコミュニケーション支援は重点的に取り組みます。あまり着目されませんが、言語発達や学習だけではなく、運動発達や余暇力、就園・就学状況に関わる要素が大きいためです。



収益・正味財産増減額の推移



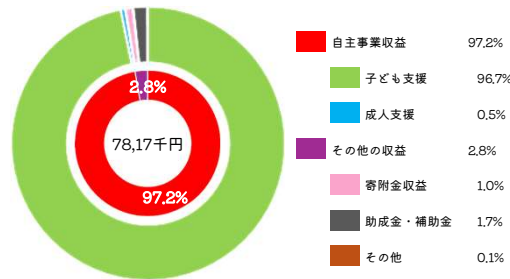
[収益増減額のサマリー]

HA-HA-HAの2024年度の総収益は約78,17千円で推移としてはやや増加傾向と言えます。しかし想定される収益の最大値に近くなっており、今後は横ばいで推移すると考えております。

[正味財産増減額のサマリー]

毎年、正味財産の積み上げは認められますが、事業のスマート化等の計画推進のため、キャッシュについては減少している状況です。

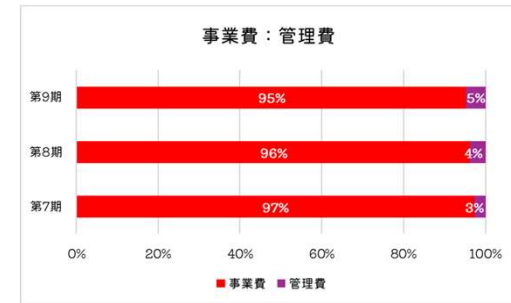
収益の内訳



[収益の内訳のサマリー]

収益のほとんどが自主事業収益であり、自立した運営が可能な収益構成となっていることが分かります。しかし自主事業収益が最大値を迎えており、今後の増収は難しく、ペアレント・プログラムや手厚い人員配置、手の届きにくい支援への参画などにはその他収益の増加が望まれます。

事業費比率



[事業費比率のサマリー]

HA-HA-HAの運営は経常費用のうち、管理費を除いて、『社会問題解決』のために事業で使用された比率を示す事業費比率が95%を上回っています。そのため子どもの支援や障がいを持つ人々の支援に費用のほとんどを使っているとと言えます。

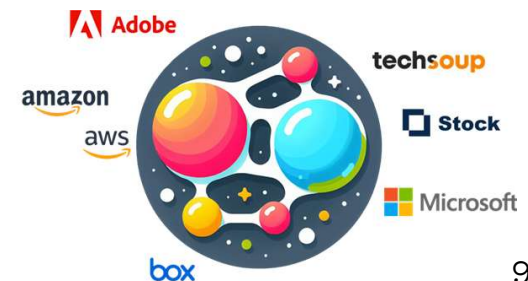
事業の適正化

[グッドギビング認証の取得]

HA-HA-HAは適正な法人運営を標榜し、公益財団法人日本非営利組織評価センターのグッドギビング認証（非営利団体が適切なガバナンスを行っていることを証明するもの）を全国第1期認証、三重県唯一の認証団体として取得しました。

プロダクトでの支援

HA-HA-HAの運営は多くの支援により成立しています。それは寄附金や助成金・補助金などに加え、企業プロダクトの提供という形でも支援を頂いています。



イベント開催報告

さかのした農園さんに委託し、農業体験イベントとして、親子で経験してもらったイベントを例年開催しており、今期もシリーズ『米』で田植え・稲刈り、シリーズ『芋』でサツマイモ掘り（今期から農業イベントからジャガイモ掘りは開催せず）を開催しています。

これらは農業体験を通じて食育等に繋がりたいなどの目的もありますが、保護者は社会通念や常識的なふるまいを求める傾向が強く、子どもは障がいの有無にかかわらず、親の求めに応じて、最後まで止められずにやってみるという経験が少なくなります。行動のすべてを通じて、親は子どものことを知り、子どもは経験から学ぶ機会を得ることができます。そのため農業イベントではありますが、目的とする農業をやらなくても、虫取りや泥遊びをしても、それを大切にイベントを開催しています。



(津市後援事業)

Parent Program

ペアレント・プログラム報告

ペアレント・プログラム（ペアプロ）の実施は今期で4年目、通算8回の実施となりました。並行して、地域でペアプロを開催できる支援者の育成も行っています。津市で広くペアプロが開催され、保護者が気持ちかろやかに子育てに取り組める姿勢づくりに貢献でき始めています。ただ実際に開催までこぎ着けている事業所はなく、津市後援・共催・委託などをいただく必要があるというペアプロの規定の影響は見受けられます。

今回も参加者は抽選となってしまい、抽選に漏れた方々もおられるので申し訳ないと思っていますが、現状の可能な最大参加者数6名での開催となっています。ただ今回は開催直前にキャンセルが2名、第1クール参加後の辞退1名となり、保護者の修了者3名、研修型修了者3名という結果となりました。

依然として途中辞退はほとんどありませんが、ペアレント・トレーニングと勘違いを起こしやすい所もあるため、チラシなどをよりわかりやすくする工夫が必要かもしれません。

アンケート結果

ペアプロの雰囲気は良かった？	★★★★★ (5.00)
子育ての気持ちが軽くなった？	★★★★☆ (4.83)
子育ての視点が定まったと思う？	★★★★☆ (4.83)
参加して新たな発見があった？	★★★★★ (4.67)
体験が子育てに定着しそうか？	★★★★☆ (4.00)
参加のサポート体制は十分だった？	★★★★★ (5.00)
ペアプロに参加してよかった？	★★★★★ (5.00)

参加後の感想

子どもへの関わり方で悩んでおり、自分の意識、関わり方を変えたいと思いつきました。ペアレントトレーニングは子どもへの関わり方を持ち寄り相談し改善して次に活かすというイメージでしたが、ペアレント・プログラムは現状に気づくことで子どもへの対応が変わっていくというところが子育てで中々バタバタしていても取り組みやすいと感じました。最初は書くのが大変と思ったのですが回を重ねるごとに気づきがあり、それが楽しくなってきました。ただ取り組みだけではなくどういう視点で見るとよいかなど具体的なことを知る事ができました。受講して終わりではなくこれから役立ちそうな内容なのが嬉しいです。困りごとは解決策にもつながるんだとプラスな気持ちにもなれました。宿題はありましたが、最後以外は時間中に考えられたので清書しながら振り返ることができて負担もそんなに大きくなく取り組み方や量もちょうどよかったです。毎回の時間も長すぎず集中できよかったです。振り返りがくるタイプだと思うのでできるとき見返したり書いたりできればと思っています。発表など緊張しましたが先生方や保護者の方も穏やかで雰囲気がよく毎回楽しみに受講できました。ありがとうございました。

子どものできるを60%で見える大切さを学ばせてもらいました。ありがとうございました。

自分に対して・子育てにおいて、「ちゃんとしない！失敗は許されない」ということが今まで軸になってしまっていたと気づくことができました。プログラムが進むにつれ、当たり前でできていること、ちょっとがんばられてきたこと、できていなくてもがんばろうとしていること全部、「ええやん〜♪」と、前向きな捉えでたくさん褒めポイントに気づくことが増えたと実感しています。他の方の話から気づかせていただいた視点も多くあり、参加させていただいて本当に良かったと感じています。素敵な機会を、ありがとうございました。

障がい児通所支援 子LAB

障がい児通所支援は大きくは施設での直接支援と訪問先での支援や連携の2つに分かれます。全国的には直接支援のみが行われることが多く、訪問支援はセンターの役割となることが多いのですが、津市では当法人が訪問活動を活発に行うことで、多くの事業所が参入し、幼稚園での訪問支援が行われるようになりました。

子LABの特徴は多職種が在籍していること、保育所等訪問支援と相談支援事業により、幼稚園/支援施設（福祉）・学校/特別支援学校/通級指導教室（教育）・クリニック/病院（医療・心理）など多くの事業所と共通認識を持って連携し、総合支援を行っている点にあります。

特に言語・非言語を含めたコミュニケーション支援を重要視しています。これは意思表示という最も重要なスキルを身に付けて、生活の中で自立して動けることを重要視しているということです。そして生活の中で活用されるコミュニケーションは学習や就園・就学の状況にも関わりますし、一見、無関係に思われる運動技能の獲得や余力などにも繋がっていくためです。

また障がいの種別を理由に受け入れを断らないことも大切にしています。自分たちに支援できるかどうかは安全性の確保という点で判断はしますが、安全性が確保できるのであれば原則、受け入れを行っています。そのため高度医療や心理支援が関わっているようなケースなど様々な背景を持つ子どもが利用します。

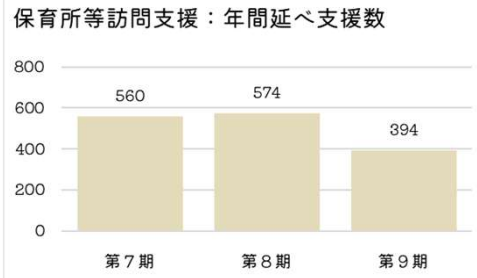


【通所の支援実績】

延べ支援数は横ばい状態です。体制を変更していないので想定通りではありますが、定員がいっぱいのため、就学時に放課後等デイへの移行ができない状態、またキャンセル待ちも年単位と長期にわたる状態が継続しており、解消が必要な状況となっています。

児童発達支援の支援数が多いのも子LABの特徴といえます。早期支援が行えている1つの指標となっている一方、先述

の課題解消と継続支援へ繋げるという課題が残っており、今後、解消が必要と感じています。



【保育所等訪問支援の支援実績】

支援体制に変更があり、そのため延べ支援数が大きく変動する結果となりました。体制を再整備しつつ、多様な訪問先で多様な連携が図れるように努めます。

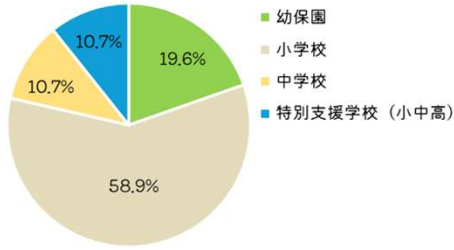
特に訪問支援員の育成・雇用を重点的に検討していく必要がある状況となっています。現状では訪問支援員が時間常勤に兼務体制となっており、専任化を進めるための専門職の育成・雇用を検討していきます。

当法人の保育所等訪問支援の特徴は全国的傾向と大きな違いがあります。それは全国的にはあまり行われな学校への訪問が総訪問数の70%前後で推移しており、かなりの割合で学校との連携を取っている点にあります。

今後は幼稚園への訪問数を向上させ、保育所等訪問支援においても、より早期連携へと繋げていくことを目標としています。

特に就学児に幼稚園から学校への情報の引継ぎという点において課題を感じており、現時点では「保育・指導要録のための発達評価シート（TASP）」を活用して情報の引き継ぎをしています。学校への情報提供という点ではよいのですが、それが十分に先生方に伝わっているかというところに弱さがあると感じており、保育所等訪問支援による弱点の補強をしていきたいと考えています。

保育所等訪問支援の訪問先種別



左図のように今期の訪問先の種別割合は小学校、中学校、特別支援学校（小学部/中学部/高等部）を合わせると学校への訪問は80%を超えており、相対的に幼稚園への訪問数は少ないことが分かります。

これは就学以降に子どもの課題が顕在化してくることが多いことを示しているとも考えられます。そのため、より早期から就園先と連携し、環境設定や関わり方・支援について共通認識を作っていくことが重要になるのではないかと考えています。子LABが重要視する将来を見据えた支援にも繋がる観点と捉えており、今後、幼稚園・就学期の訪問支援員、就学後の訪問

訪問支援員の専任化など様々な支援が行える体制を整備していく必要性があります。

そして先述のTASPが活用されていく環境（次年度の担任や就学先の小学校に引き継ぐ）の構築を並行して行うことで、TASPの機能・効果である、子どもの支援計画や小学校での小1プロブレム（学級崩壊等）の予防に役立てられればと考えています。

相談支援事業 子LAB

相談支援は子ども・成人の2部門あり、現在は両部門ともに受入がほぼ停止状態であり、現状の利用者のみ、例外的に医療的ケアや困難ケースによる受け入れ先がない場合、空きのある誕生月の子どもの支援のみとなっています。これは相談支援専門員の育成の難しさによる不足、仕事が激務のため職員の生活の質向上のため、受け入れを絞っているという側面があります。

全体的な方向性としては、当法人には主任相談支援専門員に認定されているスタッフが在籍しておりますので、相談支援専門員の増員を行いながら、育成を行い、受け入れの再開を目指していきます。

相談支援：年間延べ支援数



【相談支援の支援実績】

相談支援の児童・成人比を考えると、90%以上が児童となっています。これは特定相談支援が設置されるまでにほとんどの枠が児童の支援で埋まってしまったことが大きな理由となっています。また児童と成人では支援内容が異なることもあり、自分たちに支援できるかも慎重に検討したうえで受け入れを行ってきた経緯も関係しています。

成人支援が充実して行える専門性の育成なども行っていく必要性を感じ、また支援を行ってきた子どもたちの成人後を見据えて、就労先等を知っていく必要があると考え、数年前から就労支援事業所へのアンケート調査や訪問により就労について知る機会を設けています。現在では年に数件訪問する程度ではありますが、三重県下の事業所を60事業所以上アンケート・訪問してきている実績があります。

子どもの支援は発達障がいを中心とした多くの支援に加えて、主任相談支援専門員が強度行動障害支援者・要医療的ケア児コーディネーター・高次脳機能障害支援者となって支援を行っています。通常業務に加え、病院での同行受診や定期的な担当者会議などを積み重ねてきた結果、様々な事例を病院や基幹センター等の連携先から直接依頼を受けて支援してきています。他事業所での困難事例や重度障害による高度な専門性が求められる事例などの依頼も増えており、経験を積むことで、今期は日本小児循環器学会からの事例報告を依頼されるなど支援が高度化していると言えます。それらに対応できるよう事業所全体で積み上げを行うように努めています。

イベントも含めた年間の動き

第6回 ペアプロ終了
(津市後援事業)



第6回 ペアプロ支援者育成 (研修型) 研修終了
(津市後援事業)

第7回 ペアプロ開始 ----- 終了
(津市後援事業)

第7回 ペアプロ支援者育成 (研修型) -----
(津市後援事業)



第8回 ペアプロ開始 -----
(津市後援事業)

第7回 ペアプロ支援者育成 (研修型) -
(津市後援事業)

被災者支援のための”つながり”
を作るモデル事業出席

12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月



第1回 文具LAB開催



農業体験 田植え



日本小児循環器学会発表

農業体験
稲刈り
(中止)



グッドギビング認証取得



農業体験
サツマイモ掘り